

大洲・地域
大喜多

患者情報 ネット共有へ

医師ら来年度立ち上げ

大洲市の喜多医師会病院（徳森）と市立大洲病院（西大洲）は2017年度、医師らがインターネットで患者情報を共有するサーバー

を立ち上げる。運用開始時期は未定だが、大洲市と内子町の医療機関や施設に参加を呼び掛け、病診連携や在宅診療支援に活用する。

喜多医師会病院によると、両市町は面積が広い上に患者の高齢化や勤務医不足問題を抱える。患者情報の共有によって病院間の紹

介を促進し、医師らの負担軽減や継続性のある治療につなげたいという。

在宅診療時でも緊急対応や代理者の引き継ぎに効果を発揮し、患者にとっては投薬の重複防止などによる身体的・経済的負担の緩和が期待されるという。

有するかは検討中だが、各種検査値や動画像、投薬内容などが挙がっている。

喜多医師会病院の守野大・医事課長は「両市町には大きな総合病院がなく、それぞれの得意分野を持つ病院がすみ分けている状況。ネットワークでつなぎ補いあえれば」と話していた。

事業は県の基金や両市町の補助金を活用する。大洲市と内子町は、それぞれ補助金2827万円と1089万円を12月定例議会に提出する一般会計補正予算案に盛り込んだ。

ネットを介した医師の患者情報共有は、市立宇和島病院を中心とした「きさいやネット」が知られる。

（中井有人）